

「高師浜にミニ砂浜をつくろう会（第3回）」活動の概要

- 日 時 平成30年10月16日（火） 13:00～15:00
- 場 所 高石漁港内広場（高石市高師浜）
- 主 催 CIFER・コア（一般社団法人 大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア）
- 協力団体 大阪府水産課・港湾局、高石市、高石市教育委員会、高石市漁業協同組合、大阪湾見守りネット、レッツビギン、NPO法人大阪府海域美化安全協会、公益財団法人大阪府漁業振興基金栽培事業場、さざなみ会（順不同）
- 参加者数 130名
- 活動内容 13:00 開会
13:10 清掃活動
13:30 植栽セレモニー（クロマツ3本）
13:45 砂浜へ海砂の補給（10㎡）
13:50 稚魚放流（ヒラメ約100匹）
（南海愛児園園児、高石小学校3年生の児童）
15:00 終了





CIFER・コア 矢持進 理事の挨拶

高師浜での活動は、高石市、大阪府港湾局、高石市漁業協同組合、大阪府漁業振興基金などのご協力を得て、今回で3回目となります。高師浜の海岸線は長くありませんが、このような小さな場所から始めていくことが大切です。

浜辺には先日の台風の影響でプラスチックゴミが大量に打ち上げられていますが、マイクロプラスチックは世界の海で大きな問題となっています。

人間の都合で物を造り、自然の働きをダメにしてしまう。今はそれを再生するため、自然共生圏の構築が世界的な課題となっています。我々は、小さいですが、その一翼を担う活動をさせていただいています。皆様、ケガのないように、本日はよろしくお願いします。



阪口伸六 高石市長のご挨拶

30年以上前になりますが、子ども議会というものがあり、市の議場で子供たちが質問しました。「高石市には水族館がないので、何か魚を知るための施設があれば」と。その当時、市からの答弁は「財政が厳しい」という切り捨てるようなものとなったため、当時市議であった私は何とかできないかと思っていました。

これがスタートで、高石の砂浜と漁港が一体となり、子供たちが海と触れ合える場所にしたいと大阪府の水産課に相談に行き、ありがたい対応をしていただいたのですが、残念ながらその時はうまくいきませんでした。

現在、大阪府の支援で防潮堤が作られ、漁港全般に整備が整ってきましたが、砂浜はそのままの状態です。市長になってから、子供たちのためにここをどうするかと考えてきました。本日は浜に砂を入れてきれいにしようという尊い活動であり、職員共々、お手伝いできればと思っています。

海水浴場と砂浜の名残である高師浜、万歳！

稚魚放流では、栽培事業場 米田佳弘場長から子ども達に向けたお話がありました。



栽培事業場 米田佳弘場長のお話

今日放流するヒラメは高級魚です。ヒラメは海で卵を産むとほとんどが食べられてしまいますので、1mmくらいの卵から育てはじめ、赤ちゃんの時は人間が世話をし、ある程度大きくなってから海に放流します。すると多くの魚が生き残ります。おじさんたちはそんな仕事をしていて、今日はみんなにその仕事を手伝ってもらいます。

今日放流する魚を漁師さんが取って、何年か後にみんなの口に入ることもあるかもしれません。放流する時には魚に触ってみてください。表と裏では色が違うので見てみてください。昨日までこの子達は水槽でのエサを食べて暮らしていました。今日からは新しい世界で、自分たちの力で生きていきます。放流する時は「大きくなって戻っておいで」と声を掛けてあげてください。



浜辺の清掃活動（写真左）
浜辺への海砂の補給作業の様子（写真下）



**イベントでは大量の
ゴミが回収されました。**

台風の影響もあり浜辺には
大量のゴミが打ち寄せられて
いましたが、清掃と砂入れ
を終え、きれいな状態が
蘇りました。
集まったゴミはゴミ袋 40
個以上になりました。



クロマツの植栽式(写真上)
阪口高石市長、矢持 CIFER 理事、
道山大阪府堺泉北港湾事務所所長
の手により植樹が行われました。

ひらめの稚魚放流の様子

栽培事業場 米田場長の説明を受けた後
児童、園児たちによる稚魚放流が行われました。



■事務局から

「高師浜にミニ砂浜をつくろう会」活動も3回目になりました。

今回は台風の影響で大量の浮遊ゴミが砂浜に打ち上げられており、また、砂浜が部分的に波に侵食されていたことから、昨年行ったクロマツの植樹と稚魚放流に併せて、砂浜の大規模な清掃と海砂の補給を行いました。

昨年植えたクロマツ5本は立派に生育しており、今回も引き続き、阪口高石市長、矢持CIFER・コア理事、道山大阪府堺泉北港湾事務所長が元気に育つようにと願いを込めて各1本の植樹を行いました。

海砂の補給は、阪口市長が率先して一輪車で砂の投入をしていただき、立派な砂浜が再現できました。

稚魚放流については、南海愛児園（保育園）と高石小学校の3年生、合わせて約80名の児童が参加しました。岬栽培事業場の米田場長が自ら稚魚を運搬して来られ、子供たちにヒラメについてのわかりやすい説明を行いながら、バケツにヒラメを一匹ずつ配り、子供たちは放流を行いました。放流の時は笑顔の子供たちから歓声が上がり、いつまでも水の中のヒラメの行方を追っていました。ヒラメが沖に出て大きく成長していくのを願っているのでしょう。

のちのち、家庭でヒラメが食卓に上がった時には、きっと子供たちは稚魚放流のことを思い出すことだろうと思います。

子供たちが帰るときに一齐に大きな声で「ありがとうございました！」とあいさつをしてくれたのが印象に残りました。

活動を終えて浜を眺めると、ゴミが散乱していた砂浜が見違えるようにきれいになりました。水際線も連続して直線状になり、クロマツも並木状に連なっている状況は、狭い範囲ですが、かつての海岸線のいわゆる「白砂青松」のイメージに少しは近づいてきたと感じました。

イベント後のアンケートには、南海愛児園と高石小学校から次のような感想が寄せられました。

南海愛児園先生の感想

- ◆ 稚魚の放流で魚のことで知り、海をきれいにしなければいけないことを知る良いきっかけとなり、園で放流で感じたことを子ども達と話して、食育や自然について広げていきたい。

高石小学校児童の感想

- ◆ ヒラメをすでにさわって、はじめはキモチわるいと思ったけど、なんかいもさわるとかわいく思いました。またやりたいです。ありがとうございました。
- ◆ ひらめはさわったらぬるぬるしてうらがわは白色でした。にがしたときすなをつかってみをかくしているところがすごかったです。
- ◆ 1mmのたまごから20cmくらいまでそだっていて、心をこめてせわしたおかげだと分かりました。